

けんぽく

第3号[平成26年2月号]



平成26年2月28日発行
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

編集・発行 福島県東北農林事務所

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。

◆平成 26 年2月8～9日及び 14～16 日の降雪等に伴う農林水産業関係被害について(速報)

平成 26 年2月8～9日及び 14～16 日の降雪等に伴う農林水産業関係被害の県北地方における状況は、4億7千3百万円に上っており、県全体の約半分を占めています(2月 28 日現在)。

県といたしましては、農業共済組合に対し迅速かつ適切な損害評価の実施及び共済金の早期支払い、融資機関に対し資金の円滑な融通、既貸付金の償還猶予等について依頼しました。

また、2月 26 日から、早期の施設復旧等に必要な資金の調達を支援する災害特別資金の受付を開始しました。

さらに、パイプハウス等の早期復旧を支援する新たな支援策を検討しています。

なお、平成 26 年2月7日、14 日には、農業技術情報「大雪と暴風雪に関する農作物等の技術対策」を発行し、技術対策の周知を行いました。また、2月 17 日には、農業技術情報第 24 号「雪害を受けた農作物等の技術対策」を、2月 21 日には、農業技術情報第 25 号「雪害を受けた施設野菜等の栽培技術に関する情報」を発行しました(24 号と 25 号を別添)。

【県全体の被害額(農林水産業関係、第4報速報値)】 821, 484千円

【県北地方の被害額】 472, 861千円

[内訳]

○農業関係施設等被害(非共同利用施設)

区分	件数(件)	被害額(千円)
耕種関係	31	2, 321
畜産関係	13	35, 312
園芸関係	1, 582	360, 454
その他	17	872
計	1, 643	398, 959

○農作物・樹体及び家畜等被害

区分	被害面積等(ha)	被害額(千円)	
農作物	野菜	4. 81	46, 703
	花き	40. 39	17, 352
樹体	果樹	2. 13	535
家畜等	家畜(家きんを含む)	-	3, 225
	畜産物	-	6, 087
計	-	73, 902	

○森林被害については、現在調査中

◆果樹産地を「ヒメボクトウ」から守ろう！

近年、県北地方で、ガの一種「ヒメボクトウ」の幼虫による果樹の被害が急速に拡大し、大きな問題になりつつありますが、比較的新しい害虫であるため防除方法も確立されていないのが実情です。

多くの果樹農家の方々に「ヒメボクトウ」の生態や防除法などを知っていただくため、県北農林事務所、JA県北地方営農指導推進協議会及びJA全農福島福島営業所が連携し、2月18日にパルセ飯坂で「県北地方果樹セミナー」を開催しました。

セミナーでは、国内の「ヒメボクトウ」研究の第一人者である千葉大学の中牟田教授を始め、国内各地の研究者から最新の成果を講演していただく一方、理解を深めるためパネルディスカッションも行いました。

この中では、複数の防除手段を組み合わせること、地域ぐるみで対策をとる必要があることなどが、効果的な対策として示されました。

当日は大雪の中、約120名という多数の皆様のご参加をいただき、熱のこもった多くの意見交換が行われ、大変有意義なセミナーとなりました。

(農業振興普及部)



熱のこもったパネルディスカッション

◆JA伊達みらい農業塾閉講式が開催されました！

JA伊達みらいが平成25年4月に開講した農業塾が平成26年2月17日に閉講式を迎えました。受講生は、ももコース12名、きゅうりコース9名で、各品目の新規栽培者や定年帰農者、栽培農家の御婦人等です。各コースは今年2月までに8～9回開催され、主に普及指導員が講師役を務めました。講義や実習を通して栽培管理方法を体系的に学んでいただくほか、先輩農業者の経験談を聞く研修や東京ビックサイトでの農業資材展示会研修、さらには税務について学ぶ研修も盛り込まれました。

農業塾の内容は入門編というところですが、参加者個々

の農作業の中での疑問点や管理技術を確認する機会ともなり、また、農業者同士のネットワークづくりのきっかけともなりました。

伊達地方は県内有数の園芸地帯であり、中でもJA伊達みらいのものの販売額は約29億円、キュウリでは約20億円を誇ります。

産地担い手の育成は重要な課題であり、受講者の評価も高いことから、平成26年度以降も継続して開講される予定です。



閉校式の様子

(伊達農業普及所)

◆あだち地域農業の再生と発展を誓う ～第16回あだち地域農業振興大会を開催～

平成26年2月8日(土)、大玉村農村環境改善センターにおいて、あだち地域農業振興協議会(二本松市・本宮市・大玉村・JAみちのく安達)主催による農業振興大会が開催されました。

当日は大雪にもかかわらず農業者等150名の参加があり、講演会や映画上映、大会スローガンの採択が行われました。

講演会では、東北農政局福島地域センターから「新たな農業・農村政策」について説明があり、参加者からは経営所得安定対策

の見直し内容や新たに創設される日本型直接支払制度等に対する質問・要望がありました。

続いて「葉っぱ(つまもの)ビジネス」で有名な徳島県上勝町をモデルとした「人生、いろどり」が上映され、地域資源を有効活用した地域興しの取組を鑑賞しました。

最後に、安達地域農業の再生と発展に関する4つの大会



大会の様子

スローガンを採択し閉会しました。

今回の振興大会は、安達地域の農業者、関係機関・団体の連携を強め、今後の安達地域農業の振興につながる一日となりました。

(安達農業普及所)

◆ふくしま県産木材利用促進研修会を開催しました！

1月31日(木)、国、県、市町村、林業関係団体等を対象に、ふくしま県産木材利用促進研修会を開催しました(参加者数 29 名)。公共建築物等にお



伊達市立保原小学校における
内装木質化事例紹介

ける木造化や内装木質化の促進を目的として、実際に県産材を使用して整備した施設を視察し、木造化等の利点・課題等を学びました。

始めに教育施設における内装木質化の事例として、伊達市立保原小学校を視察しました。伊達市教育委員会教育施設課長 佐藤博史氏から「保原小学校改築における地域材の活用」という題目で講話があり、コンクリートによる無機質だった校舎を木質化することで、木のやさしさやぬくもりにより明るい校舎をつくることができたと話がありました。

次に、県産木材を活用し施設の90%以上の木造化に成功した国見町の特別養護老人ホーム「国見の里」を視察しました。施設の設計を担当



特別養護老人ホーム「国見の里」
交流ホール

した(株)レーモンド設計事務所 小安悦子設計課長による講話「老人福祉施設における大規模木造化の実例と県産材利用の課題について」では、木造化の背景・現状、木造化のメリット、大規模建築物と耐火・準耐火建築物の概要等の解説があり、今はまだ課題は多いが、木造建築には幅広

い可能性を秘めていると話がありました。

今回の研修において、木のよさやぬくもりを実感するとともに、木造建築の利点、県産材の利用に当たっての課題等を学ぶことができました。今後とも公共建築物等における県産木材の利用拡大を図るため、関係団体と連絡体制の強化や情報共有に努めていきたいと考えています。

(森林林業部)

◆平成25年度 けんぼく6次化ミーティング第2回交流会を開催しました！

2月21日(金)に、福島市飯坂町平野のJA福島ビル(福島県農協会館)において、「売れる6次化商品づくり！」をテーマに、第2回交流会を開催しました。

今回は、大阪から(株)東急エージェンシー営業総括本部関西支社ソリューション部の荒毛谷潤部長をお招きし、「まず買うべき理由を提示し、ブランドをつくる ～手ごわい関西人に、福島を売り込むツボ～」の演題で基調講演をいただきました。



東急エージェンシー荒毛谷氏の
基調講演

福島県は関西圏から遠いこともあって県全般に関する印象や関心は薄いものの、「福島県」から思い浮かぶイメージとして「誠実である」とするインターネットアンケート結果が紹介されました。比較として取り上げられた愛媛県との分析によれば、「誠実である」と「まあ誠実である」を合計した人数は福島県も愛媛県もほぼ同じくらいであるにもかかわらず、「誠実である」に限って見れば福島県が圧倒的に多く、特に若い女性層からの回答が多かったとの話がありました。



商品化前の試作品について
試食も行われた参加者交流会

荒毛谷氏からは、「この『誠実』というキーワードは福島県の強みであり、ここからイメージ戦略を立ててブランドづくりを進める方法もあるのではないか」とのアドバイスがありました。

また、県北地方で6次化商品の開発に取り組む農業者や加工業者から、平成25年度に新たに開発した12商品のサンプル提供があり、プレゼンテーションが行われました。こ

の後、NPO法人福島県クリエイターズ協会の田中聡理事長から、商品化に際しての更なるブラッシュアップに向けたコメントが寄せられました。

交流会では、試食や意見交換だけではなく、厨房機器メーカーからコンパクトな真空包装機の展示・実演もあり、内容豊かな交流会となりました。

(企画部)

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員紹介コーナー

福島市小中学校PTA連合会

～希望にみちた未来を子どもたちに～

【組織の目的】

PTA相互の緊密な連携のもとに、PTAの健全な発達を推進し、家庭、学校、社会における児童、生徒ならびに青少年の健全な成長を図ることを目的に活動を行っております。

【構成】

福島市内の市立、国立の小学校、中学校、特別支援学校の計76校の保護者、教職員で組織され、会員数が約23,000名となっております。

【活動内容】

会員の研修や各単位PTAの共通する課題の解決、諸問題に関する調査、研究、関係諸団体との連携、リフレッシュ事業による支援等

【特にPRしたいこと】

原発事故以降、福島県の食材に対する不安から地産地消の部分が希薄となったのは残念である。しっかり検査したものは安全であると思っておりますが、会員には、不安を感じている方も未だにあり、今後いかに学校給食や家庭の食材で本県産の使用割合を増やしていけるのかが重要であると思っております。

本会において、福島市派遣事業により昨年、一昨年とベラルーシ共和国を訪問する機会があり、帰国後、情報共有の目的から独自の報告会を開催したり、放射線に対する研修会の開催や食育についての勉強会を開催してきました。

今後、構成員の皆様の協力を得ながら、少しずつでも本県産品の消費拡大につながるよう各単位PTAを通じ呼びかけていきたいと思っております。

今後も、正しい情報の提供をよろしくお願いいたします。

(今回は会長さんに執筆していただきました。)



リフレッシュ事業(福島ユナイテッドによるサッカー教室)



放射線に関する研修会(ベラルーシ訪問帰国報告会)

福島県の観光につきましては、依然として風評は収まっておらず、観光客数は震災前の水準に回復しておりません。このため、多くのお客様に実際に福島を見ていただき、復興をアピールし、風評を払拭するため、ふくしまデスティネーションキャンペーン(DC)を開催します。

農林水産分野においても、花(花き・花木)、食(農林産物)などで、来県者におもてなしの心で接しましょう。

もうすぐ開催！国内最大の観光キャンペーン ふくしまデスティネーションキャンペーン(DC)

メインテーマ



全県の共通テーマとして3つを広報宣伝の柱とし、ガイドブック・ポスター等各種施策で本県の最大の魅力として特集を組む等PRを強化する。

統一感



全体的なイメージとして、統一感を持った見せ方でパンフレットや販売促進宣伝会議等各種施策を展開する。



地域テーマ

各方部の特色を最大限アピールできるテーマ(歴史、体験、日本酒、街歩きほか)を選定し、総合ガイドブックのエリアページや旅行商品等で発信する。

プレDC

H26.4.1～6.30 「福が満開、福のしま。」福島県観光キャンペーン

観光素材の掘り起こし・磨き上げ、県民の盛り上げ(おもてなし意識の浸透)

風評払拭

DC本番

H27.4.1～6.30 ふくしまデスティネーションキャンペーン

観光素材(商品)の全国展開、地域主体の観光キャンペーン・おもてなしの実践

震災前の観光水準へ

アフターDC

H28.4.1～6.30 アフターDCキャンペーン「名称は今後決定」

観光素材(商品)の定着化・ブランド化、持続可能な観光推進体制の確立

さらなる飛躍に向けて

米の全袋検査

→ ふくしまの恵み安全対策協議会HPにリンクしております。

原発事故による、
摂取・出荷制限食品
【県北版】



けんぽく農林

検索

(PDF ファイルの場合、各バナーをctrlキー+マウスの左クリックでそれぞれのホームページが開きます。)

皆様からの御意見・御要望など様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp



ふくしまからはじめよう。

TEL ()

URL: http://www.s.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224



URL <http://www.newfukushima.jp/>

雪害を受けた施設野菜等の栽培技術 に関する情報

福島県農林水産部農業振興課

雪害を被った園芸施設の復旧に時間を要する場合は、播種及び定植を遅らせる必要があります。

大玉トマトときゅうりについて、4～6月に定植した場合の生育日数を下記のとおり示しますので営農計画の参考にしてください。

なお、購入苗の場合はほ場の準備ができ次第直ちに定植しましょう。

1 大玉トマト

【4～6月定植の作型及び播種～定植～出荷に要する日数（中通り）】

中通り	播種	育苗日数	定植	初収穫までの日数	出荷期間	収穫ピークまでの日数	出荷ピーク
4月定植	2/上	60	4/上	60	6/上～11/中	40	7/中
5月定植	3/上	60	5/上	55	7/上～11/中	40	8/中
6月定植	4/上	60	6/上	50	7/下～11/中	40	9/上

【県内各方部の作型事例】

	播種	育苗日数	定植	初収穫までの日数	出荷期間	収穫ピークまでの日数	出荷ピーク
県北普及部管内 (ミニトマト)	2/下	45	4/上～6/下	75	6/下～11/下	45	8/上
県中普及部管内	2/中～4/上	65	4/下～6/中	60	6/下～10/下	40	8/上
田村普及所管内	2/下～3/下	60	4/下～6/中	60	6/下～11/中	45	8/中
須賀川普及所管内	2/中	60	4/中	60	6/中～10/中	30	7/中
県南普及部管内	2/17	64	4/22	53	6/14～11/14	35	7/中
会津普及部管内 (山間部)	3/下	55	5/中	60	7/中～11/上	30	8/中
喜多方普及所管内	3/上	60	5/上	55	6/下～11/上	30	7/下
坂下普及所管内	2/20	65	4/25	55	6/20～11/上	35	7/下
相双普及部管内	2/上	60	4/上	60	6/上～10/下	30	7/上

※播種から仮植までの日数は、約30～35日間です。

2 きゅうり

【4～6月定植の作型及び播種～定植～出荷に要する日数（中通り）】

中通り	播種	育苗 日数	定植	初収穫ま での日数	出荷期間	収穫ピーク までの日数	出荷ピーク
4月定植	3/上	35	4/中	35	5/下～10/下	40	7/上
5月定植	4/上	35	5/中	35	6/下～10/下	40	8/上
6月定植	5/上	30	6/上	30	7/上～10/下	40	9/上

【県内各方部の半促成栽培作型事例】

作型	播種	育苗 日数	定植	初収穫ま での日数	出荷期間	収穫ピーク までの日数	出荷ピーク
安達普及所管内	2/中	45	3/下	35	4/下～7/下	35	5/下
県中普及部管内	1/上～2/下	45	2/中～4/上	35	3/中～7/下	45	4/下～5/下
須賀川普及所管内	1/中～2/中	35	2/中～3/中	35	3/下～6/下	45	5/上～6/上
会津普及部管内	2月～3月	35	3月～4月	35	3/下～8/下	90	7/上
坂下普及所管内	3/5	25	3/30	40	5/上～7/下	45	6/中
相双普及部管内	2/下	35	3/下	35	4/下～7/上	60	6/下

参考【抑制裁培の作型及び播種～定植～出荷に要する日数】

作型	播種	育苗 日数	定植	初収穫ま での日数	出荷期間	収穫ピーク までの日数	出荷ピーク
県北普及部管内	7/上	30	7/下	30	8/中～11/下	30	8/下～9/上
安達普及所管内	7/10	25	8/5	30	9/上～11/下	30	10/上
会津普及部管内	6/中	30	7/中	30	8/中～11/下	30	9/上
県中普及部管内	7/上～8/上	30	7/下～8/中	30	8/下～11/中	30	10/上
須賀川普及所管内	7/上	30	7/下	30	8/下～11/下	30	9/中
坂下普及所管内	6/25	25	7/20	30	8/中～11/上	25	9/上
相双普及部管内	7/下	30	8/上	30	9/上～11/下	30	9/下

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング
情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>



モバイル版 QRコード